

令和7年度 学校評価(自己評価)

1 学校教育目標

夢に向かって 心豊かに たくましく生きる児童の育成 ー やさしく かしく たくましく 希望の登校 満足の下校の実現 ー
--

2 めざす児童像

①「夢に向かう子」…自ら求めて、学び続ける子
②「心豊かな子」…自分も相手も大切に子、ふるさと・新山小を愛する子
③「たくましい子」…命の大切さを理解し、健康で安全に過ごす子、最後まであきらめずに取り組む子

3 自己評価結果

A:85%以上、B:75%以上～85%未満、C:60%以上～75%未満、D:60%未満

分野・領域	評価項目	評価の指標(取組状況)			分析・改善の方策
学習指導	指導方法を工夫し、わかりやすい授業の実践に努めている。	児童	「授業がよくわかる」95%	A	算数科を研究教科とし、毎学期、授業研修会を行い、外部から講師を2名招聘し、指導力の向上を図ってきた。 タブレット端末の活用をとおして、学習意欲の向上、理解の可視化・効率化、学習内容の深化に努めてきた。また、今年度は、生成AIの授業での活用を進め、研鑽を深めた。 学力調査の分析から、書くことに課題のある児童が多いことが分かった。そこで、自分の考えを書いたり、書いたものを伝え合ったりする交流活動を充実させている。
		職員	「教材研究を行い、わかりやすい授業を行うことができた」88%	A	
		保護者	「教師はわかりやすい授業に努めている」94%	A	
学力向上	個々の実態を把握し、児童の学力向上に向けて効果的な取り組みを実践している。	児童	「宿題をきちんとやっている」92%	A	宿題に関する児童の自己評価は90%を超えているが、家庭学習(学年×10分)の習慣はなかなか定着していない児童が多く見られる。 今年も月例テストを実施し、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図ってきた。また、主体的、対話的で深い学びを実現するために授業を改善していくことも、全職員に意識させている。 今後も、学校サポート教員・特別支援教育支援員・養護補助員等と連携し、よりきめ細やかな指導を行う。
			「宿題以外の勉強もしている」58%	D	
		職員	「児童の学力を高めることができた」95%	A	
		保護者	「子どもが学習内容を理解している」82%	B	
生徒指導 (いじめのない学校づくり)	いじめのない学校づくりに努めている。	児童	「学校が楽しい」88%	A	道徳科の授業を要とし、豊かな心の育成に努めてきた。また、学校生活アンケート、教育相談を定期的に実施し、悩みや困りごとに迅速に対応し改善するとともに、教育相談員、スクールカウンセラーとの連携も図ってきた。今年度も、担任だけではなく、養護教諭による面談も全員実施し、児童理解に努めた。 大多数の児童が楽しく学校に通っている中、学校が楽しくないと答えた児童が6名いた。「希望の登校 満足の下校の実現」を目指し、児童全員が学校に来ることを楽しいと思えるよう、職員のベクトルを一つにし、児童一人ひとりの多様性を認め、大切にする温かい学級経営に努める。
		職員	「やさしい子」を日常的に意識し、具現化に向けて努力できたか」100%	A	
		保護者	「子どもが楽しく学校に通っている」88%	A	
生徒指導 (あいさつ)	進んであいさつのできる児童の育成に努めている。	児童	「進んであいさつをしている」83%	B	挨拶については、児童と職員・保護者の回答結果の差があり、児童はよくできていると感じているが、職員・保護者は十分とは感じていない。そこで、子どもたちが自分自身のこととして意識をもって取り組めるよう、計画委員会を中心に挨拶運動を行っているところである。 地域での挨拶については、少なくとも知っている大人、例えば友達の家の方や見守り活動をしてくださっている方には、挨拶ができる子になってほしいと考えている。
		職員	「児童のあいさつがよくできている」74%	C	
		保護者	「児童のあいさつがよくできている」78%	B	
保護者・地域との連携	情報提供とともに地域の教育力を生かしている。	職員	「学校・地域・家庭との連携がうまくなされた」100%	A	運動会、マラソン記録会、授業参観、親子レク等多くの行事を、PTA役員や青少年相談員、地域の方のご協力のもとで開催することができた。また、放課後のPTAパトロール活動、環境美化作業、PTAお楽しみ会、新山ワンダーランド、読み聞かせ等にご協力いただき、子どもたちの安全や楽しい活動・思い出づくりとなった。1年生の昔遊びや3年生の福祉体験においても、地域の方々と交流することができた。 学校だより、学年だよりなどの保護者あて文書の紙媒体の配付とすぐるによる配信の両方を推し進めたことは、保護者の方々に好評だった。 今後も、地域・保護者・学校で力を合わせて子どもたちの成長を支えていけるよう協力体制を作っていきたい。
			「保護者への連絡をきめ細かく行い、悩みや相談に丁寧に対応した」100%	A	
		保護者	「PTAや地域と連携した教育が進められている」91%	A	
			「学校の様子をわかりやすく保護者に伝えていく」89%	A	
			「学校は特別支援教育の推進を図り、個に応じた教育に努めている」88%	A	

4 自己評価の結果の分析

<学習指導・学力向上> ・指導方法を工夫し、分かりやすい授業の実践に努めてきた。今後も、学力調査の結果を指標に、指導力の工夫改善に注力する必要がある。 ・算数科の研究を継続するとともに、タブレット端末や生成AI等の効果的な活用についても研修を進めていく。 <生徒指導> ・「学校が楽しい」と思えることが、学校教育の土台となることを共通認識し、児童の指導・支援にあたっていく。 ・アンケート調査、教育相談を定期的に実施し、児童理解に努める。生徒指導やいじめについては、未然防止・早期解決に向け、スクールカウンセラーや教育相談員、校内委員会を活用し組織的に素早く対応していく。 <保護者・地域との連携> ・地域人材を活用しながら子どもたちの活動を充実させ、地域の実態に応じた特色ある教育課程を組み、より開かれた学校づくりを目指していく。

令和7年度 学校関係者評価結果報告書

1 学校教育目標

学校名 成田市立新山小学校

『夢に向かって 心豊かに たくましく生きる児童の育成』 ー やさしく かしく たくましく 希望の登校 満足の下校の実現 ー		学校関係者評価委員
--	--	-----------

2 めざす児童像

① 「夢に向かう子」…自ら求めて、学び続ける子	学校運営 協議会委員
② 「心豊かな子」…自分も相手も大切にする子、ふるさと・新山小を愛する子	
③ 「たくましい子」…命の大切さを理解し、健康で安全に過ごす子、最後まであきらめずに取り組む子	

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標（取組状況） A: 85%以上, B: 75%以上～85%未満, C: 60%以上～75%未満, D: 60%未満			分析・改善の方策	学校関係者評価	
						自己評価 の適切さ	改善に向け た取組の通 過さ
学習指導	指導方法を工夫し、わかりやすい授業の実践に努めている。	児童	「授業がよくわかる」95%	A	算数科を研究教科とし、毎学期、授業研修会を行い、外部から講師を2名招聘し、指導力の向上を図ってきた。 タブレット端末の活用をとおして、学習意欲の向上、理解の可視化・効率化、学習内容の深化に努めてきた。また、今年度は、生成AIの授業での活用を進め、研鑽を深めた。 学力調査の分析から、書くことに課題のある児童が多いことが分かった。そこで、自分の考えを書いたり、書いたものを伝え合ったりする交流活動を充実させている。	A	A
		職員	「教材研究を行い、わかりやすい授業を行うことができた」88%	A			
		保護者	「教師はわかりやすい授業に努めている」94%	A			
学力向上	個々の実態を把握し、児童の学力向上に向けて効果的な取り組みを実践している。	児童	「宿題をきちんとやっている」92%	A	宿題に関する児童の自己評価は90%を超えているが、家庭学習（学年×10分）の習慣はなかなか定着していない児童が多く見られる。 今年も月例テストを実施し、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図ってきた。また、主体的、対話的で深い学びを実現するために授業を改善していくことも、全職員に意識させている。 今後も、学校サポート教員・特別支援教育支援員・養護補助員等と連携し、よりきめ細やかな指導を行う。	A	A
		児童	「宿題以外の勉強もしている」58%	D			
		職員	「児童の学力を高めることができた」95%	A			
		保護者	「子どもが学習内容を理解している」82%	B			
学校関係者による意見等	・児童の学習に向かう姿勢が素晴らしいと感じている。 ・「早寝早起き」「宿題以外の勉強」「読書」の評価が低い。学校と家庭で連携し、動機付けを行っていく必要がある。						
生徒指導 （いじめのない学校づくり）	いじめのない学校づくりに努めている。	児童	「学校が楽しい」88%	A	道徳科の授業を要とし、豊かな心の育成に努めてきた。また、学校生活アンケート、教育相談を定期的に実施し、悩みや困りごとに迅速に対応し改善するとともに、教育相談員、スクールカウンセラーとの連携も図ってきた。今年度も、担任だけではなく、養護教諭による面談も全員実施し、児童理解に努めた。 大多数の児童が楽しく学校に通っている中、学校が楽しくないと答えた児童が6名いた。「希望の登校 満足の下校の実現」を目指し、児童全員が学校に来ることを楽しいと思えるよう、職員のベクトルを一つにし、児童一人ひとりの多様性を認め、大切にしている温かい学級経営に努める。	A	A
		職員	「やさしい子」を日常的に意識し、具現化に向けて努力できたか」100%	A			
		保護者	「子どもが楽しく学校に通っている」88%	A			
生徒指導 （あいさつ）	進んであいさつのできる児童の育成に努めている。	児童	「進んであいさつをしている」83%	B	挨拶については、児童と職員・保護者の回答結果の差があり、児童はよくできていると感じているが、職員・保護者は十分とは感じていない。そこで、子どもたちが自分自身のこととして意識をもって取り組めるよう、計画委員会を中心に挨拶運動を行っているところである。 地域での挨拶については、少なくとも知っている大人、例えば友達の家の方や見守り活動をしていてくれる方には、挨拶ができる子になってほしいと考えている。	A	A
		職員	「児童のあいさつがよくできている」74%	C			
		保護者	「児童のあいさつがよくできている」78%	B			
学校関係者による意見等	・縦割り班活動の様子を見ると、生き生きと楽しく学校に通えていると感じる。 ・あいさつについては、人間関係のできている大人に対しては、自然に気持ちよくできている。						
保護者・地域との連携	情報提供とともに地域との教育力を生かしている。	職員	「学校・地域・家庭との連携がうまくなされた」100%	A	運動会、マラソン記録会、授業参観、親子レク等多くの行事を、PTA役員や青少年相談員、地域の方のご協力のもと開催することができた。また、放課後のPTA/パトロール活動、環境美化作業、PTAお楽しみ会、新山ワンダーランド、読み聞かせ等にご協力いただき、子どもたちの安全や楽しい活動・思い出づくりとなった。1年生の昔遊びや3年生の福祉体験においても、地域の方々と交流することができた。 学校だより、学年だよりなどの保護者あて文書の紙媒体の配付とすぐるによる配信の両方を推し進めたことは、保護者の方々に好評だった。 今後も、地域・保護者・学校で力を合わせて子どもたちの成長を支えていけるよう協力体制を作っていくたい。	A	A
			「保護者への連絡をきめ細かく行い、悩みや相談に丁寧に対応した」100%	A			
			「PTAや地域と連携した教育が進められている」91%	A			
		保護者	「学校の様子をわかりやすく保護者に伝えている」89%	A			
			「学校は特別支援教育の推進を図り、個に応じた教育に努めている」88%	A			
学校関係者による意見等	・敬老会、菜の花会、交通安全協会、社会福祉協議会、青少年相談員連絡協議会、本校施設利用の社会教育団体など、現在つながっている地域の団体とのつながりが強くなっていて素晴らしい。さらにはほかの団体との連携も広がられるとよい。						

4 次期の重点目標と改善のための方策

<学習指導・学力向上> - 指導方法を工夫し、分かりやすい授業の実践に努めてきた。今後も、学力調査の結果を指標に、指導力の工夫改善に注力する必要がある。 - 算数科の研究を継続するとともに、タブレット端末や生成AI等の効果的な活用についても研修を進めていく。 <生徒指導> 「学校が楽しい」と思うことが、学校教育の土台となることを共通認識し、児童の指導・支援にあたっていく。 - アンケート調査、教育相談を定期的に実施し、児童理解に努める。生徒指導やいじめについては、未然防止・早期解決に向け、スクールカウンセラーや教育相談員、校内委員会を活用し組織的に素早く対応していく。 <保護者・地域との連携> - 地域人材を活用しながら子どもたちの活動を充実させ、地域の実態に応じた特色ある教育課程を組み、より開かれた学校づくりを目指していく。	
---	--